

## [COMMUNION]

WEB:<http://www.nskk.org/tokyo/index.html>  
 E-mail:comm.tko@nsk.k.org  
 PHONE:03-3433-0987  
 FAX:03-3433-8678  
 Diocese Office



中高生世代キャンプ特別号

第39号 (通巻1274号)

2017年9月18日

編集:広報委員会

委員長:渡辺康弘

日本聖公会東京教区

港区芝公園3-6-18

今年度も多くの方々にお支えいただき、中高生世代キャンプが8月10日から13日に行われました。今年度は、キャンパー24名、スタッフ4名、チャプレン2名、引率2名の総勢32名が、群馬県みなかみ町の日本バイブルホームにて3泊4日を過ごしました。キャンプのテーマは「今」。聖書を共に考えるプログラムは「今、聴く」、聖餐式の準備は「今、作る」というように、すべてのプログラムの題名に「今、」という言葉をつけ、32名それぞれが4日間を通して、共に過ごすこの時を意識し、「今」について考え抜きました。

キャンパーの人数も多かったため、キャンプ全体の雰囲気はとても賑やか。スタッフにとっては、起床してから就寝するまでキャンパーたちのパワーがキャンプ運営の原動力になりました。また、キャンパーたちは、そのパワーによって、キャンプ初参加も経験者も関係なく、最後に東京に戻ってきたときにはもう立派な「仲間」となっていたように思います。

## 2017 中高生世代キャンプ特集

テーマ  
「今、」

今年のキャンプのテーマは「今、」。「今」は長い過去と長い未来に挟まれた一瞬の時間のことです。私たちは日常生活の中でよくその長い過去や未来について考えますが、改めて思い巡らしてみると、「今」について考える機会はありません。このキャンプの4日間は、今の自分を見つめて、今出会った仲間との時間を大切にしてほしいとの思いでテーマを「今、」としました。

「今」の後に句読点を付けてその後を書かなかつたのは、今何をしているか、何を感じているかという「今、」の後に続く言葉は人それぞれ違うからです。一人一人の「今」を大切にしてほしいという思いが込められています。

たった一度しか訪れない「今、」であった2017年度中高生世代キャンプの4日間。キャンプで仲間と出会い、共に笑い、互いに語り合った一つ一つの出来事が奇跡であるというところに多くのキャンパーとスタッフが気付き、かけがえのない4日間となりました。

1日目

キャンパス初日、キャンパーたちは堅い雰囲気集合し、バスへ乗り込みました。前半はバスプログラム「今、出発。」、アイスブレイキング



「今、出会う。」を行いました。アイスブレイキングではチームに分かれて聖徳太子ゲームや氷鬼、ドッジボールを行いました。みんなで一緒に頭を使い、体を動かしたことでキャンパーとキャンパーの間の緊張感がなくなっていました。夕食後は「今、聴く。」このプログラムでは聖書のみ言葉を共に読み、考えや感じたことを共有します。ルカによる福音書第15章11〜32節（放蕩息子のたとえ）を取り上げ、その時の「今、」キャンパーそれぞれが誰に共感して読んだか、それぞれにとつてのキーワードを聴きあいました。そしてメンバーの考えを聞いた後の「今、」自分はどう読むかを考えました。

2日目

2日目の朝は清々しい朝でした。キャンパー同士がこのキャンパスで出会ってからちょうど24時間、早くもキャンパーみんながこのキャンパスに慣れて、他のキャンパーと話すようになってきたこと

とが感じられました。この日予定されていたのは「今、作る」「今、生きる」「今、向き合う」の3つのプログラム。

「今、作る」では、3日目に行われる聖餐式に向けて、みんなでパンとぶどう酒、ろうそくを作った他、代祷をみんなでローテーションで作っていきました。特にろうそく作りでは、人によって色も形も異なったため、キャンパー一人一人の個性を見ることができました。午後は「今、生きる」のプログラム。このプログラムは、巨大すごろくの中で、人生それぞれのポイントでの質問に答えたいき、全体を通して人生を感じることもできるような仕掛けになっています。このすごろくに皆で挑み、長い過去の積み重ねの上に今の自分がいることを実感できました。夜の「今、向き合う」では、スタッフも含め、キャンパー一人一人が自分の人生をグラフにして振り返りました。自分の人生を一から振り返ることはあまり日常では行いません。こうしてみんなで振り返ることによって他人はもちろん、自分にも見えていなかった自分を見ることができました。



3日目

3日目は、「今、〇〇」という題の、午前十と午後までに及ぶ大きなプログラムを行いました。前半2日間で「今、」について考えてもらったことを、劇にしてもいいと思います。少人数のグループに分かれ、午前中はキャンパーのみで話し合いをしました。スタッフがあまり携わらないので、キャンパーだけで何かを作るといのが、このプログラムの醍醐味でした。大きな模造紙に全員が考えを書き、それを話し合い、まとめていきました。「今、」の続きに言葉をに入れてもらい、それを題名にして、午後に劇を発表しました。グループごとに「今、」について考えたことは異なり、他のグループの考えに共感したり、またスタッフが気づかされることも多い発表会になりました。夜はキャンパスのお楽しみであるキャンパスファイアーと、聖餐式を行いました。キャンパスファイアーでは、「落ちた落ちた」や「ポイズン」というゲームをし、また火を囲んでキャンパスソングを熱唱し、大いに盛り上がりました。その後の聖餐式では、2日目に作ったろうそくの灯りと、キャンパス



ファイアーの残り火の灯りのみで行いました。同じように2日目に作ったパンとぶどうジュースも、みんなで分かち合いました。聖餐式後は、きらきら光り輝く残り火と星空を眺めました。

4日目

4日目最初は「今、ありがとう」というプログラム名で、お世話になったバイブルホームのお掃除を行いました。「来る前よりもきれいにする」を目標に、キャンパーとスタッフ力が合わせ、磨き上げました。その次は「今、記す」で、4日間共に過ごしてきた仲間の手紙を書きました。スタッフを含め31人宛に、「あなたのこんなところが好き」や「あなたと今を感じた瞬間」などを思い出し、その手紙を交換しました。その後はキャンパス最後のプログラムである閉会式を行いました。1人1言、4日間の感想を短く発表しました。楽しかった時間を思い出し、涙を流すキャンパーやスタッフがたくさんいました。帰りのバスでは、仲間との別れを惜しむように、キャンパスソングを口ずさみながら東京に戻ってきました。



「キャンパーの感想」

安念 克海

今回の中高生世代キャンパスのテーマは「今、」。初めて参加した僕は中学1年、最低学年だった。中学生活では先輩後輩の関係が厳しいが、中高生世代キャンパスでは打って変わって学年の垣根を越えた関係だった。フレンドリーに話しかけてもらえて、緊張は解けていった。そして最初のプログラム「聖書についての分かち合い」では、高校生などの年上がいることで、中学1年では絶対にあいえない視点からの聖書の解釈に驚かされた。そして様々なプログラムを通じて、心が繋がっていった。最後のキャンパスファイアーでみんなと火を囲んだことは忘れられない経験だ。聖餐式ではみんなで作った代祷を唱えて、パンを分かち合えた。僕がこの中高生世代キャンパスを通して感じたことは、「今」がどんなに大切かということ、このキャンパスがなかったら、それに気づけなかった。そして「今」について考える機会はこの先多くはないだろうと思うことだ。しかし僕はこのキャンパスで感じた「今」を忘れないでいたいと思っている。



大山 純佳

今回皆と過ごした日々は本当に楽しく心に残る4日間でした。中でも5〜6人のグループに分かれ、自分の今までの人生を話し合うという分かち合いの時間が印象に残っています。「今、」というキーワードを軸に、人生を振り返ると、楽しかったこと、嬉しかったこと、そしてもちろん辛かったことも、本当に沢山のことがあったなと思います。でもその一つ一つが、他者との繋がりがあったからこそ経験できたことで、日々の学校生活、友達との喧嘩、本当に辛かった出来事さえ、そこから気づくことは沢山あります。そして、それらから影響を受けたから今の私があるのかなと今、感じます。そして、おそろくこれからも、私は人との繋がりの中で変化していくのかなと思います。なので、いつも感謝の気持ち忘れず、今まで出会った皆との繋がり、そして、これから出会う皆との

金子 英志郎

私とキャンパスとの出会いは、5年前である。毎年違ったテーマを持って行われるキャンパス。今年のテーマは「今、」であった。普段、目まぐるしく動き続ける日常生活を歩むだけでは、なかなか自分のある姿は見ることができない。だが、世代の近い、元は他人であったキャンパーたちと親しい関係になり、語り合い、遊び、自分を見つめることによって、私はいかにかけがえない仲間仲間と恵まれた環境の「今、」を過ごしていることを知ることができた。最終日には、仲間との別れを惜しみ、深く悲しんだほどであった。「今、」私はこのキャンパスを終え、感想を書くべく、思い出を振り返っている。私の脳裏に鮮明に蘇るこのかけがえない宝物は、すでに過去のものとなっ

てしまっている。しかし、私を感じているこの「今、」は、こうした過去を積み重ねてこそ成り立っているのである。5年間の3泊4日の日々は、これからの「今、」を生きる私の素晴らしい糧となるであろう。

土井 優美

私は中高生世代キャンパスに初めて参加



しました。行ったことのない場所での新しい出会いの仲間たちと過ごすことに最初はとても緊張していましたが、思った以上にみんながフレンドリーですぐに馴染めました。そして、殻に閉じこもらずに新しい自分を知ることができました。

今回のキャンパスのテーマの「今、」について、最初はちょっと哲学的で難しいテーマだと思っていました。でも目を重ねるといかに分かち合っていたか、3日目の劇の時にみなが言っていた、「今、」というのは置かれている状況にいて感じたり思ったりすること、つていうのにすぐく納得しました。

6学年という狭いようで広い学年のくくりの中で同じ今を共有出来たことはすごいことなんだなと思いました。

キャンパスから帰ってきた今、素晴らしい思い出と仲間ができて、私はすごく充実しています。みんなに出会えてよかった。本当にありがとう。

## 「スタッフ感想」

今田 侑汰

私は中高生世代キャンプにキャンパーとしても出たことがない初参加のスタッフとしてこのキャンプに参加しました。このキャンプでは、このキャンプに来なければ出会うことは決してなかった出会いがたくさんありました。みんなから「ピーター」と呼ばれながら過ごした4日間は色々な事を学ぶ良い機会になり、とても楽しかったです。このキャンプで培ったものをこれからも大切に過ごしていきたいと思います。

大山 桃佳

8月10日の朝、アンデレ教会に集合し、13日の夜、同じ場所解散した。同じ場所に同じ人々がいたが、キャンプの前の「今」と、後の「今」では何かが大きく違った。過去や未来ではなく、「今」を感じるのとはどんな時だろうか、と幾度となく考えた。出会ったばかりの仲間と遊び、語り合い、何度も心が動いた。「今」が「過去」に変わってしまう、止まることのない時間の流れを意識し、かけがえない一瞬の「今」を愛おしく感じた。

永井 智子

およそ10カ月にわたる準備期間を経て、今年もまた、キャンプを通して多くの仲間たち、多くの「今」に出会うことができました。切り取られた4/365日間のなかの「今」、この瞬間。通り過ぎてしまったら二度と戻ってこないこの瞬間を、この仲間たちとともに過ごせたことを心より嬉しく思います。キャンプを振り返り、改めて今まで何気なく通り過ぎてきた「今」、そして、これから来るであろう「今」、を大切にしたいと感じます。

新妻 夏奈

4/365日の「今、」のために準備を重ねた10か月間。私は初めてメインスタッフとしてゼロからキャンプづくりに関わらせていただきました。どんなに長い準備期間があっても、4/365日の「今」は一回しか訪れず、一瞬で終わってしまいます。「今」の儚さを身をもって痛感しました。しかし同時に、「今」が一瞬で終わってしまうからこそ私たちは「今、」を大事にしたいと思えるのではないかと、そんなことを考えさせられるキャンプでした。

司祭 ニコラス 中川 英樹

4/365日。この僅かな時間の中で、24人のキャンパーたちは真剣に自分と他者との「今」について、その尊さと大切さ、そして楽しさをとことん考え抜きました。それはとても素敵な時間でした。この夏の「今」が、これからの一人一人の、一つ一つの「今」をきつと支えて往くと想います。

司祭 ヨセフ 太田 信三

恵み溢れる3泊4日。3日目、朝から夕方までじっくりと…キャンパーが4グループに分かれ、キャンプで考え、感じた「今」を振り返り、語り合い、「今、〇〇」というタイトルの劇に。皆から『今』って大事なんだ！って教えていただきました。

引率 小林 忠正

それぞれに様々な『今、』や『今迄』があって、そのことを実感できるキャンプでした。

そんな『今、』をキャンプという場所で共有できた喜びに感謝しつつ、この出会いと、今後を大切にしてゆきたいと思えます。

引率 下条 あすか

「今」は一瞬にして過ぎ去って行く。そんな一瞬一瞬が積み重なって「今」の自分ができている。これまでとおって来た今と、キャンプで感じた今と。様々な「今、」をみんなが共有できたことはかけがえない体験。感じたことは一人ひとり違っても、共に過ごした「今」はきつとこれからの自分を形作る力になる！

## 【今年度の参加者】

【中高生世代】

安念克海（東京聖テモテ教会）、五十嵐結奈（練馬聖ガブリエル教会）、大山純佳（三光教会）、小貫真基（聖マーガレット教会）、金子英志郎（立教学院諸聖徒礼拝堂）、木枝萌（立川聖パトリック教会）、北久保光宣（聖マーガレット教会）、小嶋元（立教学院諸聖徒礼拝堂）、須賀瞳（八王子復活教会）、卓由真（練馬聖ガブリエル教会）、塚田永遠（聖マーガレット教会）、土井優美（三光教会）、八森あめり（聖愛教会）、平林瑠子（渋谷聖公会聖ミカエル教会）、穂積香菜（三光教会）、穂積光汰（三光教会）、本多悠輝（聖マーガレット教会）、松永めい（真光教会）、松原雄貴（立教学院諸聖徒礼拝堂）、道須南人（練馬聖ガブリエル教会）、村松宏高（聖アンデレ

教会）、本幡明子（聖救主教会）、本幡千晴（聖救主教会）、本幡明日香（聖救主教会）

【青年スタッフ】

今田侑汰（立教学院諸聖徒礼拝堂）、大山桃佳（立教学院諸聖徒礼拝堂）、永井智子（三光教会）、新妻夏奈（聖マーガレット教会）

【チャプレン・引率スタッフ】

太田信三司祭（聖アンデレ教会）、渋谷聖公会聖ミカエル教会、下条あすか（聖パウロ教会）、小林忠正（立教学院諸聖徒礼拝堂）、中川英樹司祭（立教学院諸聖徒礼拝堂）

## 【感謝】

今年度も中高生世代キャンプを無事に行うことができました。キャンプを成功させることができたのは、ご協力頂いた教会、聖職や信徒の皆様のご支援によるものです。スタッフ一同より心から感謝申し上げます。ありがとうございます。どうぞごさいませました。

